

◆ 戸別収集モデル地区、検証結果説明会

平成 25 年 3 月 4 日（月） 午後 6 時から 7 時 20 分 レイ・ウェル鎌倉

参加者 29 名

- 1 環境部次長から挨拶
- 2 資源循環課担当課長から戸別収集モデル事業検証結果の説明
- 3 質疑 応答

Q 袋の値段が記入されていないが？

A 10 当り 2 円で 4 種類を予定している。有料化については、審議会から答申をもらったのち、市の行政計画として位置づけ、議会の承認を得てから実施となる。

本日は戸別収集の検証結果を報告させていただき、有料化は改め説明をさせていただくことになる。

Q アンケート調査の結果では 30%以上が有料化に反対しているが、H26 年度に戸別収集・有料化には納得出来ない。

戸別収集の利点は認めるが資源ごみはステーション回収で 2 カ所になりコスト面でも 7000 万円のマイナス。戸別収集と有料化を一体として考えるのはよくない。

A 議会の承認がないと有料化の実施は出来ないが、市としては有料化と戸別収集は一体で行っていきたい。

Q 地方公共団体が住民から手数料をとるのは特定のものと定められているはずでどの家庭からも出る燃やすごみ、燃えないごみで手数料をとるのは税金の二重取りで間違っている。袋の料金に一カ月 960 円もかかるのであれば食費を削って買う人もでてくる。

千葉の流山市では、有料化を市民がさせず、徹底した啓発により減量に努め、結果がでていると聞いている。

配布された資料に問 10 が記載されていない。問 10 のこれ以上ごみが減らないという 70%以上の回答がある部分が掲載されていないのはおかしいのではないかと。

A 先行市での裁判の判決から、税金の二重取りには市はならないと考えている。

袋の料金については、200 袋 1 回で 40 円、一カ月で 500 円弱と考えている。また、生活保護世帯等については配慮することなど予定している。

H26 年度中に今泉クリーンセンターの焼却が停止となることから、ごみの減量は差し迫った課題であるため、戸別収集・有料化による減量をしていく。

資料にはアンケート結果全てを掲載していないが、アンケート調査をまとめたものは入口で配布している。

Q 戸別収集・有料化に反対である。

有料化実施前後に粗大ごみ等の不法投棄が増えると思う。不法投棄の問題を解決してから行うべきである。

ごみ箱は市が用意し統一したものとしカラス被害対策で用意したアルミボックスの購入費用を返すべきではないかと。

A 不法投棄は藤沢市の例ではパトロール等を強化したと聞いている。先行事例を聞いて対応をしていきたい。

ボックスを買い取る事は出来ないが無料での回収を考えている。ごみ箱は各戸で用意して頂き、市ではお知らせ、紹介はしていきたいと考えている。

Q 戸別収集を全市実施まで継続することは私たちの税金を甘く見ている。

有料袋を使わなくても自己責任でごみを出し、個々の意識を高める学習会を開催すること
でいい方向に向かうと思う。

A モデル地区は全市実施の H26 年度まで続けていきたい。

Q 戸別収集モデル地区に反対、住人の意思を確認して、クリーンステーション収集に戻してほしい。資料によると毎年 7000 万円の赤字になることになる。そこまで戸別収集を市は実施したいのか。

A クリーンステーション収集に戻すということであれば、町内会単位、少なくともクリーンステーションを利用している単位でお願いしたい。

戸別収集・有料化を実施することでより確実にごみの減量を進めていきたい。

Q 戸別収集にしてもクリーンステーション収集にしても不法投棄はなくなる。

時代の流れから考えれば、有料化は仕方無いと思うが、7000 万円も毎年赤字になるということならば行うべきではないのではないかと私は考えます。

